

新ヘルスケア産業フォーラム 第4回定時総会・大会



6月8日(水)、新ヘルスケア産業を中部圏の新たな成長産業として創出・育成していくことを目的に設立された

「新ヘルスケア産業フォーラム*」は、第4回定時総会ならびに大会を名古屋市にて開催した。

*代表:北川梅村学園学事顧問、事務局:名古屋大学、中経連
定時総会には約40名が出席し、理事改選、事業報告および事業計画、収支報告および収支計画について審議し、原案どおり承認された。

引き続き開催した大会では約100名が参加し、以下の内容で講演会を行った。

①次世代ヘルスケア産業の創出ならびに健康経営の推進について

講師/経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課課長補佐 藤岡 雅美 氏

②IoT時代の新ヘルスケア産業の創出と展望について

講師/東京大学大学院情報理工学系研究科教授 橋田 浩一 氏

③介護現場のニーズにもとづく介護周辺サービス創出の可能性について

講師/(一社)福祉経営総合研究所 理事 志賀 弘幸 氏

講演会終了後には、講師を交えた交流会を行い、参加者は新たなビジネスモデル創出に向けた相互理解を深めた。

(産業振興部 鈴木 茂夫)

経済団体のトップ等で構成される「東海産業競争力協議会」の第4回会合が開催され、中経連から小川専務理事が参加した。

はじめに、事務局(中部経済産業局)から、「日本再興戦略2016」の概要、「TOKAI VISION」の改訂、同VISIONに基づくアクションプランの進捗等の説明があった。参加者からは、IT・ロボット技術の開発・利活用促進による産業の高度化、TPP等を契機とした海外展開支援や国際化、観光産業の振興等について活発な発言があった。

小川専務理事は「さらなる観光客増加のためには、各地の観光資源を磨き上げるとともに、県域を越えた、テーマ性・ストーリー性のある周遊コースの形成が効果的。加えて、昇龍道エリアやモデルコースの国内外へのPR、宿泊施設等の受入環境の整備が必要。航空機産業の競争力強化には、企業間の連携、企業力強化、人材育成機関の整備等による、国際競争力を持つ部品・装備品メーカーの育成が必要」と強調した。また、地域が一体となって防災力・減災力の強化を目指す「地域連携BCP」の構築も重要だと述べた。

(企画部 久保田 孝重)



南海トラフ地震等に対する 緊急防災対策促進大会および要望活動

6月16日(木)、東京都内にて開催された「南海トラフ地震等に対する緊急防災対策促進大会」に、大村愛知県知事、松井大阪府知事等とともに中経連から三浦常務理事が参加した。

第4回東海産業競争力協議会

6月10日(金)、東海地域の戦略産業の振興、地域資源の活用を通じた地域経済活性化等を検討することを目的に、東海5県の知事や政令市長、

促進大会では、中部から九州までの関係自治体および経済団体が連携し、甚大な被害が想定される南海トラフ地震等の大規模な地震・津波災害に対する堤防の整備・補強など、緊急性の高い防災対策の促進要望を決議した。

この後、南海トラフ地震等に対する緊急防災対策促進実行委員会の代表者が要望活動を実施した。

要望先：菅官房長官、河野内閣府特命担当大臣 等
訪問者：大村愛知県知事、三浦中経連常務理事 等
＜主な要望内容＞

- ①短時間で津波が襲来する沿岸域や海拔ゼロメートル地帯などのリスクの高い地域における緊急性の高い対策に集中投資し、強靱化を加速できるように防災・減災に資する予算の総枠を確保すること
- ②最低限必要な対策を集中的に推進するため、新たな財政支援制度を創設するなど支援措置を講じること

(社会基盤部 西井 憲治)



水のいのちものづくり中部フォーラム 第8回総会・第16回水ビジネスセミナー

6月17日(金)、「水のいのちものづくり中部フォーラム」(会長：豊田中経連会長)は第8回総会および第16回水ビジネスセミナーを名古屋市内にて開催し、約80名が参加した。

総会の開催にあたり、豊田会長は「美味しい水をつくる技術、水質問題を解決する技術、貴重な



水を有効活用する技術等の国内外でのビジネス展開に向けて皆様と力を合わせて取り組んでいきたい」と挨拶を述べた。

総会では、平成27年度事業報告および収支決算、平成28年度事業計画および収支予算、平成28年度会計監事選任について審議し、原案どおり承認された。

引き続き開催した第16回水ビジネスセミナーでは、以下の内容で講演会を行った。

- ①下水道分野における国際展開の取り組みについて
講師/国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道企画課 下水道事業調整官 松原 誠 氏
- ②メキシコシティにおける下水道処理改善プロジェクト
講師/名古屋市上下水道局技術本部施設部水質管理課 主幹 赤塚 直孝 氏
- ③ODAを活用した中小企業海外展開支援 ～JICA中小企業現地調査プログラム メキシコ・水処理分野～
講師/・(独)国際協力機構中部国際センター市民参加協力課 専門委託(企業連携担当) 前島 美紀 氏
・(株)エステム 海外部長 丸山 武夫 氏

(社会基盤部 西井 憲治)

中部国際空港利用促進協議会 理事会・賛助会員大会

6月22日(水)、「中部国際空港利用促進協議会」(代表理事：豊田中経連会長、岡谷名古屋商工会議所会頭)は平成28年度の理事会および賛助会員大会を名古屋市内にて開催した。理事会で

は、平成27年度事業報告・収支決算、平成28年度事業計画・収支予算について審議し、原案通り承認された。

引き続き、賛助会員大会を行い、賛助会員、関係行政機関等から約180名が参加した。賛助会員大会では、冒頭、豊田代表理事が挨拶し、「伊勢志摩サミットをきっかけに、インバウンドのさらなる増加や海外取引の拡大等、グローバル化に繋げることが重要。フライ・セントレアの優先利用はもちろんの事、既存路線の維持や欧米への新規直行便の誘致を強力に進めていく必要がある。貨物についてもフライ・セントレア・カーゴを推進し、貨物便の拠点空港としても大きな役割を果たしていくべき。さらに、国や地元自治体等と連携し、二次交通の充実や二本目滑走路の実現等の諸活動にも取り組んでいきたい」と述べた。その後、事務局より平成28年度事業計画を説明し、賛助会員に活動に対しての一層の支援と協力を求めた。

賛助会員大会終了後、観光庁観光地域振興部長の加藤庸之氏を講師に迎え、「訪日外国人旅行者4,000万人に向けた今後の取組み～観光の最新動向を踏まえて～」と題してご講演をいただいた。講演では、訪日外国人旅行者の動向、国の観光政策、観光地魅力創造事業等について説明がなされた。

(社会基盤部 奥山 基樹)



伊勢志摩サミット東海会議 第2回総会

6月27日(月)、「伊勢志摩サミット東海会議」(会長:三田中経連名誉会長)は第2回総会を名古屋市内にて開催し、約30名が出席した。

本会議は、今年5月に開催された伊勢志摩サミットを、当地域の認知度向上や、さらなる活性化のための絶好の機会と捉え、昨年11月に地元自治体や経済団体、観光団体が一体となり設立したものである。

総会では、中部国際空港や名古屋駅などに設置した「カウントダウンボード」「歓迎装飾」「おもてなしブース」および各種PRツール作成などの事業報告、収支決算が承認された。その後、本会議は、予定した事業をすべて実施・完了し、目的を達成することができたため、解散することとなった。



最後に、三田会長は「期間中に当地域を訪れた1,500名ものサミット関係者をはじめとする海外からのお客様に、産業・観光について大いに発信し、国際的認知度の向上を図ることができた。東海会議は解散するが、引き続き官民が広域連携し、より多くの海外からの訪問者を『おもてなし』の心でお迎えし、文化や自然などの観光資源を楽しんでいただくとともに、より一層積極的に海外との交流に努め、インバウンドの増加や海外取引の拡大に繋げていくことが重要である」と本会議の活動ならびに当地域のさらなる活性化に向けた想いを語った。

(伊勢志摩サミット支援推進室 和田 耕一郎)